

令和4年度 園評価書

園番号

27

園名 静岡市立広野こども園

I 経営の重点に関わること

評価段階 (A:よくできている B:概ねできている, C:あまりできていない, D:できていない)

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員会から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
笑顔あふれる 元気な子	夢中になって遊ぶ ～やりたい思いを表現しよう～	職員が子どもたちや保護者一人ひとりに丁寧「おはよう」「こんにちは」「さようなら」と声をかけている	気持ちの良い挨拶をしようと思っけている職員が多く、子ども達や保護者に向けてだけでなく、職員同士も声をかけている。そのよ姿を見て子ども達の「おはよう」「さようなら」と挨拶をする姿につなげるようにした	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・園庭遊びの時に子ども達の方から声をかけてくれる姿が見られた ・共感的、応答的な関わりという点で保育の中の関わりについては違いが分かりにくい、説明を聞いて保育者が色々な子ども達の事を考えて保育をしているのだと思った ・園庭で、子どもたちが色々な遊びを経験している様子が見られた 	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶は基本であるので、一人一人の職員が気持ちの良い挨拶をすることを引き続き心掛けていく。家庭への働き掛けも行っていきたい ・「〇〇ちゃんおはよう」とその子の名前を呼んだり、しっかり目を合わせて挨拶するという事を続ける ・保育者自身も子ども達と一緒に遊んで遊ぶ中で同じ目線に立って「楽しい」「不思議だね」「面白いね」という子どもの思いに共感する ・育てたい子どもの姿を職員間で共有し、発達や一人一人の興味、関心に沿って好奇心を満たすことができるように環境を整える
		子どもの気付きに共感しながら一緒に遊ぶことを大切にしている	一人一人の職員が、子どもと一緒に遊ぶことを大切に、「子どもたちの喜びや驚き、発見に寄り添うようにしてきた。共感的、応答的な関わりをより丁寧に行っていきたい	B	B		
		子どもの挑戦する姿や好奇心、探求心を大切に「なせだろう」「不思議だね」と共感し寄り添う言葉をかけている	やってみようとする姿を実現する為の遊具の扱い方や遊び方について話し合った。又すぐに答えを出してしまうのではなく子ども達が自分で考える姿を大切にしたり、図鑑等で一緒に調べたり、どうしてなのかを考えたりするようにしてきた	A	A		

II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員会から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	一人ひとりの発達の特性を理解し、それに合わせた支援を行っている	年齢や年齢に照らし合わせながらも、個人差に配慮し一人一人にあった関わりを考えながら保育を行っている。また職員同士が連携を取る事により担任だけでなくフリーの立場の保育者も子どもの興味や発達を理解して保育にあっている	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びだしの姿とはどのような姿を言うのか分からなかったが、説明を聞いて理解した ・年長児の午睡については、ゆるやかに進めてくれたので、家庭でも夕方眠りに眠くなってしまおうような事がなくなってきて、就学に向けての準備が出来ている ・様々な年代の職員がいる中で、若い世代に保育のスキルを伝えたり、世代間のギャップを埋めたりすることで、今園が抱えている課題であるより細かな養護的な部分でフォローできていくのではないかと ・広野では、山、川があり、自然も豊かで街中に比べてよい環境のこども園だと思う ・異年齢の子ども同士の関わりを大切にしている印象が残った ・空き箱など、子ども達が自由に使える環境があり、製作を楽しんでいる ・職員がマスクをしているので、子ども同士、怒っているなど相手の表情が分からないのではないかと ・コロナ禍で評価の判断をするとしたら出来る範囲で行っているだけでA評価なのではないかと。全くできていないのではないかと、その中で時間、場所、方法などを工夫して行っていると思う ・保護者として、おたよりなどで子ども達の活動を伝えてもらっているのが、子どもが家です話の内容が分かる。また、園内だけでなく、散歩などに出かけ、色々な刺激に触れていると思う。安心して引継ぎ、保護者への子どもの育ちや遊びの姿の発信方法について模索し、伝えたい内容を簡潔に分かりやすく伝えていけるようにする 	
		(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	保育時間や家庭環境、国籍の違いを踏まえ、子どもたちが安心して園生活ができるよう配慮している	A	A		
		(3)環境を通して行う教育及び保育	子ども達が「おもしろそう」「もっと遊びたい」等意欲的に活動できるよう遊び出しの姿を大切にしている	B	B		
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	職員一人ひとりが、想定される災害時に取るべき行動を理解し、避難、誘導ができる	年間計画に沿って様々な状況下で実施ができ、反省が行われている。反省を基に全職員で共有していき、ヒヤリハットの共有は出来ていたが改善策を話し合う場が少なかったため今後会議などで時間を作っていききたい	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練の反省を回覧したり、会議などで共有したりして、次回に活かしていく ・海近くに立地しているという認識で様々な想定下での訓練を重ね、避難のスキルアップを図る ・使った物を片付ける、整理整頓をする等、保育者が手本となるよう心がける ・鼻水を拭く、シャツをズボンの中に入れてしまうなど身だしなみを整える事の気持ちよさを伝える 	
		(1)健康教育の充実	健康・安全な生活に必要な習慣や態度が身につくよう、年齢や個人差に配慮している	B	B		
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	健康・安全な生活に必要な習慣や態度が身につくよう、年齢や個人差に配慮している	毎日の健康観察に加え、年齢や発達に応じて手洗いや排泄、着替え等の習慣を生活の中で定着するように声かけを行ってきた。鼻汁をかむ、衣類の裾をズボンの中に入れてしまうなど、更に細かい所も丁寧にできるようにしたい	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・支援が必要な子どもについて、主に関わる職員同士で支援方法の共有を行う ・職員会議時や会議内容の伝達時にしている、要支援児の姿と関わりを共有を続けていく 	
		(1)支援体制づくりの推進	個別の支援計画に基づき、個の状況に応じた指導内容、指導方法を職員間で共有して指導に当たっている	B	B		
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	個別の支援計画に基づき、個の状況に応じた指導内容、指導方法を職員間で共有して指導に当たっている	月1回、職員会議で支援児の様子や支援方法を担当保育者が伝える事で、前半よりも職員間で共有することにつながった。担当保育者から一方的に伝える事が主となり、職員間で話し合う機会が少なかった為十分な共有までは至らなかった	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・リーダーとサブリーダーが共に協力し合えるように分掌担当で話し合う時間を設ける ・分掌担当中心に皆で仕事を分担する等園全体で取り組むという意識を職員間でもっていき ・全職員が園内外の公開保育に参加できるように体制を整え、研修だけでなくで研修に参加していない職員にも学びが共有できるようにする ・外部講師を招いて学ぶ機会を増やす 	
		(1)組織体制の充実	分掌担当を中心とし、園の活動の計画が立案され職員の協力体制のもと、年間計画に沿って実施されている	ほとんどの職員が園内の公開保育に参加し、研修のテーマや手だてを共有する事ができた。事後研修の内容を貼り出す事で、参加できない職員にも研修の学びを共有するようになった。また、近隣園の公開保育への参加を3回実施した	B		B
5 組織運営	(1)組織体制の充実	分掌担当を中心とし、園の活動の計画が立案され職員の協力体制のもと、年間計画に沿って実施されている	ほとんどの職員が園内の公開保育に参加し、研修のテーマや手だてを共有する事ができた。事後研修の内容を貼り出す事で、参加できない職員にも研修の学びを共有するようになった。また、近隣園の公開保育への参加を3回実施した	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者として、おたよりなどで子ども達の活動を伝えてもらっているのが、子どもが家です話の内容が分かる。また、園内だけでなく、散歩などに出かけ、色々な刺激に触れていると思う。安心して引継ぎ、保護者への子どもの育ちや遊びの姿の発信方法について模索し、伝えたい内容を簡潔に分かりやすく伝えていけるようにする 	
		(1)研修体制の充実	研修部を中心に年間計画に沿って園内研修が実施され、子どもたちの「やってみよう」につながる支援について継続的に取り組んでいる	写真の掲示の方法について学び合い、写真だけに頼らない連絡ボードの掲示やクラス便りなどの書き方等に活かした。乳児クラスも連絡ノートと併用して、連絡ボードや写真の掲示に取り組んでいる	A		A
6 研修	(1)研修体制の充実	研修部を中心に年間計画に沿って園内研修が実施され、子どもたちの「やってみよう」につながる支援について継続的に取り組んでいる	写真の掲示の方法について学び合い、写真だけに頼らない連絡ボードの掲示やクラス便りなどの書き方等に活かした。乳児クラスも連絡ノートと併用して、連絡ボードや写真の掲示に取り組んでいる	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・用宗こども園、長田南小学校との連携を今後も継続し、子ども達が交流できる方法を考えていく 	
		(1)教育・保育環境の充実	子どもの興味や関心をとらえ、遊びを進展させることができる素材の準備、提供をしている	子ども達と遊び、その中で何が遊びに必要か一緒に考えて季節や活動に合った空き箱などの素材や木の実などの自然物、道具などを用意した。まだまだ工夫や改善できる点も多いと感じている	B		A
7 教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	子どもの興味や関心をとらえ、遊びを進展させることができる素材の準備、提供をしている	子ども達と遊び、その中で何が遊びに必要か一緒に考えて季節や活動に合った空き箱などの素材や木の実などの自然物、道具などを用意した。まだまだ工夫や改善できる点も多いと感じている	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・用宗こども園、長田南小学校との連携を今後も継続し、子ども達が交流できる方法を考えていく 	
		(1)家庭教育への支援機能の充実	遊びの中での子どもの工夫や学びを写真を用いた連絡ボードや園便り、クラス便りを通して発信したり、降園時に伝えたりしている	写真の掲示の方法について学び合い、写真だけに頼らない連絡ボードの掲示やクラス便りなどの書き方等に活かした。乳児クラスも連絡ノートと併用して、連絡ボードや写真の掲示に取り組んでいる	A		A
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	遊びの中での子どもの工夫や学びを写真を用いた連絡ボードや園便り、クラス便りを通して発信したり、降園時に伝えたりしている	写真の掲示の方法について学び合い、写真だけに頼らない連絡ボードの掲示やクラス便りなどの書き方等に活かした。乳児クラスも連絡ノートと併用して、連絡ボードや写真の掲示に取り組んでいる	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方に見守られているという思いを大切に、感染症対策をしながら来年度もトライアスロン、ももクラブ、広野文化展等に積極的に参加していく 	
		(1)近隣の園との連携の推進	近隣の用宗こども園とサッカー教室参加などで交流したり公開授業や学校訪問等を通して、近隣の長田南小学校との連携を図っている	コロナ禍だが、感染症対策をしながら用宗こども園長組と一緒に、サッカー教室や粘土教室に参加したりした。長田南小には洪水の避難訓練を兼ねて全園員で行くなどしたが、来年度はもう少し行く回数を増やしたいと思う	B		B
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	近隣の用宗こども園とサッカー教室参加などで交流したり公開授業や学校訪問等を通して、近隣の長田南小学校との連携を図っている	コロナ禍だが、感染症対策をしながら用宗こども園長組と一緒に、サッカー教室や粘土教室に参加したりした。長田南小には洪水の避難訓練を兼ねて全園員で行くなどしたが、来年度はもう少し行く回数を増やしたいと思う	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方に見守られているという思いを大切に、感染症対策をしながら来年度もトライアスロン、ももクラブ、広野文化展等に積極的に参加していく 	
		(1)信頼される園づくりの推進	広野祭りや敬老会などを通して地域との交流を図っている	予定していたトライアスロン、ももクラブへの参加や長田地区敬老会がコロナの影響で参加することが出来なかったが、おしゃべりサロンや広野文化展などで地域の方との交流の場を持つことができた	B		A
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	広野祭りや敬老会などを通して地域との交流を図っている	予定していたトライアスロン、ももクラブへの参加や長田地区敬老会がコロナの影響で参加することが出来なかったが、おしゃべりサロンや広野文化展などで地域の方との交流の場を持つことができた	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方に見守られているという思いを大切に、感染症対策をしながら来年度もトライアスロン、ももクラブ、広野文化展等に積極的に参加していく 	